



市長との約束 2022

私は、「宝の都（くに）・大崎」の実現のため、関係部局との連携のもと、特に下記の事項について、目標達成に向けて取り組むことを伊藤康志市長と約束します。

危機管理監

佐藤 光弘

約束内容	防災力・減災力をさらに強化させ、市民の生命・身体・財産を守る
達成目標	新型コロナウイルス感染症の状況下において、防災対策活動が制限される中、防災知識・技術・実践力の低下と後退が危惧されることから、年間を通じた市域内の防災意識の高揚と市民の安全と安心の確保を最大の目標として取り組みます。
達成度	A 達成目標を上回る ★★★★★☆
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・福島県沖地震、7月大雨被害等の大規模な自然災害や、国民保護危機事象などに対応、過去災害や事象で得られた教訓を踏まえ、関係機関や市民と連携し、庁内体制を整えて、人命を守る一定の初動・応急措置・復旧活動に傾注、災害頻発化での市民災害死亡「ゼロ」を達成した。 ・さらなる安全安心と職員の更なる防災意識向上を目途に「職員行動マニュアル」の改訂を行い、次災害への備えも並行して取り組んでいる。 ・市民の生命、身体を守り、安全安心な暮らしの基盤を維持して引き継ぐことが、地域防災の命題と捉え、改めて庁内で共有している。

約束内容	消防団体制の維持、強化と活動実効性の向上
達成目標	コロナ禍における、防災知識・技術・活動力の衰退危惧は消防団も同様のことから、昨年度に検証と見直しを行った消防団整備計画の目標水準を参考に、消防団組織、人員、機械器具及び水利の整備を進めるとともに、現場活動における機能発揮と実践力が高まるよう取り組みます。
達成度	A 達成目標を上回る ★★★★★☆
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・新設した「機能別消防団（定員30人）」は、現在27人（一般13人・学生14人）となり、団員確保と活性化に大きく寄与し、消防団組織における大きな転換期となった。 ・企業等に広く消防団活動に協力いただく「協力事業所制度」の推進では、7事業所を新たに加え、合計42事業所となった。引き続き訪問依頼を行い、協力事業所の増加に取り組む。 ・「大崎市消防団整備計画」に基づき、班再編や車両・資機材の整備を行い、現有可搬ポンプ50台余りの早期軽積載車化に向けて順調に取り組んでいる。また、消防団員の活動技術も高まっている。

約束内容	交通死亡事故の抑制
達成目標	市内における交通死亡事故死「年間ゼロ」を最大の目標とし、継続するよう努めます。
達成度	B 概ね目標どおり達成 ★★★☆☆
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・市内交通事故の発生は、警察署・交通安全協会・交通指導隊・母の会等の関係機関，団体のご尽力とコロナ禍連携した取り組みも奏功し令和3年・4年は減少傾向となり，死亡事故も1件で推移し「ゼロ」を目標に事故防止呼び掛けを継続的に実施した。 ・新年になり状況は一変，1月の3週間あまりの期間に交通死亡事故が立て続けに3件（3名）発生したことから，関係機関，団体と連携し，事故抑止の緊急キャンペーンや催しを実施した。 ・市内における悲惨な交通事故を防ぎ，市民の命を守る事業への取り組みを進めていく。